

県立入試まで「あと13日」ラストスパートを
—第1志望高校合格のために、志望高校合格の秘訣—

開倫塾

教務部長 渡辺 博

- ① おはようございます。今朝も開倫塾の時間を聴いて頂いて有り難うございます。
今日の放送は、塾長の林に変わり、開倫塾教務部部長の渡辺博が担当させていただきます。
- ② 受験の皆さんおはようございます。受験まで13日と2週間を切りました。新聞紙上では最終倍率も発表されました。例年通り今年度も非常に高い倍率です。この倍率を見ると受験生の皆さんは、不安と心配で受験勉強に手が着かないことでしょう。しかし、「焦ること」はラストスパートの態勢では大敵です。「最後の追い込み」の今現在、目標を持って学習することが大事です。今日は、その中で①精神面と②学習面についてお話しします。
- ③ 受験校の競争相手は自分と同じ実力の持ち主です。まず、はじめに精神面についてお話しします。ここでのポイントは、同じ高校を受験する競争相手は自分と同じ実力を持っているということです。難関高校を受験する受験生は、高いレベルの持ち主であり、中堅高校を受験する受験生はその高校のレベルにあった生徒であるということです。そして、これが「事実」だと「思いこみ」しましょう。何か変な言い方ですが、「同じレベル」だなどと思しましょう。それを「思いこむ」ことで最後のラストスパートがはかどり、また、受験会場でも力を発揮できます。
- ④ 受験生は自分の周りにはいる生徒がどうしても自分よりレベルが高いように見えてしまいます。これが、よく言われる「受験会場の雰囲気」に呑まれる」ということです。この状態では良い結果が生まれません。しかし、発想を転換してみると、周りにはいる受験生は皆同じレベルの持ち主だと言えます。同じレベルの中で競争するわけですから、「だめだ」とか「負ける」などのマイナスの発想はしないで、「合格できる」と合格を意識する「思いこむ」ことがポイントになります。これは学習面でも大変プラス効果を発揮します。一つ問題が出来たから一つ合格に近づいたと考えましょう。もし、出来ない問題があっても、これを復習して克服したから「安心」と自己暗示をかけましょう。この時期では、いろいろなことをすべて「プラス発想」に転換することが必要となります。
- ⑤ 学習面は過去を振り返りましょう。受験日が近づくと、受験生は一般にやり残した問題が気になります。「あの問題はまだ解けない」とか「これもやらなければ」とか残った問題を気にするようになります。その反面、今まで受験勉強をした量はかなりなものです。「これだけ頑張った

から」と思えば不安は多少なりとも解消されるでしょう。今、あれもこれもと思っても仕方ありません。時間がないのは事実ですから。自分がやってきたことに「自信」を持ちましょう。

⑥ ラストスパートは目標を持って勉強しましょう。残りの時間をどのように有効に使うかお話しします。まず、自分の受験高校の合格得点を目標として過去問を解きましょう。もう5年分は解いていると思います。だから、それよりも古い過去問を解きましょう。ただし、削除項目は手を付けないことにしましょう。何故、過去問を解くかといいますと、栃木県は記述問題や論述形式の問題が多いからです。この解答方法に慣れることが合格へのポイントといえます。もし、過去問が5年分解き終わっていても配点の高い論述問題は繰り返して復習をしてみましょう。社会や理科、それに英作文などは、同じ内容の問題が出題されることが多いからです。

⑦ ここまで受験が迫れば誰でも不安がつきまといます。この不安を解消する方法は、勉強で解決するしかありません。「どうしよう」と思ったら。新しい問題は手を付けず、自分の学習したことを復習してください。社会であれば歴史の教科書を読むことも気分転換になって良いでしょう。

⑧ 最後に、開倫塾全校舎で、2月28日金曜日から5日間、県立入試のための「直前特訓」を実施しています。時間は、午後5時から午後10時の5時間です。そして、1日1科目を集中して授業を行います。授業の内容は、平成15年度の入試の予想問題です。この予想問題を入試と同じ時間をかけて問題を解き、その問題の解説をします。本番の入試の不安を取り除くためにも、是非この「直前特訓」を受講してみたら如何ですか。きっと受験に役立つことと思います。お申し込みは、フリーダイヤル0120-066555です。

⑨ 最後に、受験生の皆さんの合格をお祈りいたします。

今日の担当は、開倫塾教務部部長渡辺博でした。

(2003年2月21日)記